



絵替麒麟に福良雀図鉢 三つ組
松山窯 口径24.3cm 個人蔵

本来から三つ組で、分散されずにここまで来た。三つとも、ほぼ同じような図である。9匹の福良雀に見守られるように麒麟が天を見上げている。福良雀は、全て正面を向いたデザインとなっている。



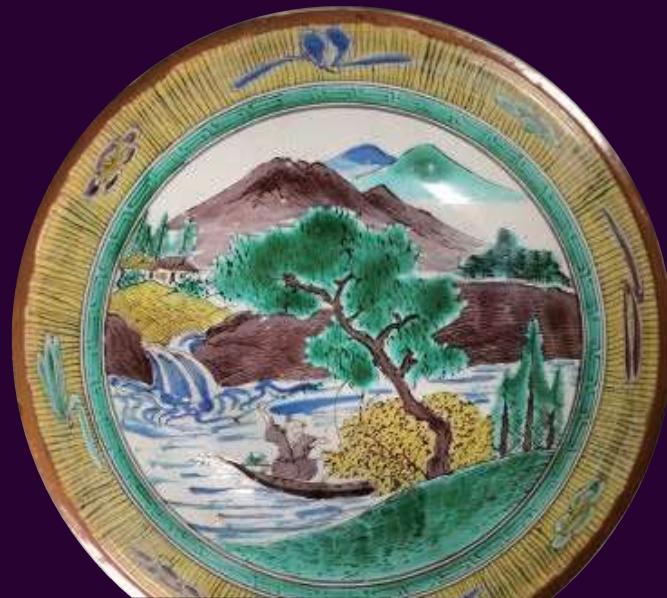
山水家屋図福字鉢 松山窯 口径20.5cm 個人蔵

色の調合も発色も良く、出来の良い作品。色の調合は人間技、発色は自然相手の神業。そこまで崖下に松樹を迫り出させるか、というほど、樹形が傾いている。裏面の高台内に「福」字があるのは普通であるが、表面の見込み周辺にまで「福」字を配置することで、より吉祥性を高めたい作者の思いが伝わる。



桜に鳥図鉢 松山窯 口径21.4cm 個人蔵

絵がうまく、筆が走る。鳥の動きも、本からでなく、実物観察からデザインを採取したのであろう。桜は丁寧に描かれており、八重桜。表面も上手だが、裏面も上手である。こうしてみると、見込みの周辺や、裏面、もしくは小紋などを門下生や修行中が描いたというのは、限定的な実態かもしれない。



滝山水釣人物図鉢 松山窯 口径17.9cm 個人蔵

舟の中の人物の眼つき、顔つきは、真剣そのもの。釣り竿をグイっと引き上げたその瞬間をとらえている。左手は手のひらを空に向け、画面では描かれていらないが、釣り上げた魚を受け取ろうとしているかのようである。人物の背後には魚籠。舟の背後には滝。水中にできた変化の周り、滝のような落ち込みの周辺には魚が潜んでいることが多いことを意識して描いているか。



山水松下家屋図五稜輪花鉢 松山窯 口径25cm 個人蔵

月こそ出ていないが、月夜もしくは、夕暮れ時を思わせる。落雁も一日の終わりの侘しさを感じさせる。橋の上の杖をもった人物が山の方の空を見上げ、一瞬止まった時間を探賞者と共有する。

兎に砥草図鉢 松山窯 口径18.2cm 個人蔵

兎年の本年にふさわしい作品である。兎は実生活には身近だが、九谷焼のモチーフとしては、そうそうない。兎が、トクサとササに囲まれて体を丸めている。上空には三色の雲。裏面の雲気文も丁寧で、かつ速度感があり、素晴らしい筆致。上手の逸品である。



鳥に桜楓散し文鉢 松山窯 口径15cm 個人蔵

後ろ向きの鳥を描くのは珍しい。鑑賞者に背中を向ける理由を探すことには時間がかかる。桜の花びらには紺青と紫が使われているが、紫は極めてよく溶けており、ピンク色のようにも一見してみえる。見込み周辺には色とりどりの楓。春の桜と秋の楓との共演か。



雲龍図寿字向付 5客 松山窯 口径7.4cm 個人蔵

見込みには寿字、外側周囲には雲の中を飛ぶ龍をグルっと一周に描く。



山水家屋図隅入四方小鉢 10客

松山窯 口径14.9cm 個人蔵

花紺青の色合いが素晴らしいと、違和感を通り越して、見所である。



水辺に双鴨図鍔縁鉢 松山窯 口径25cm 個人蔵

草場に身をひそめながら、一匹の鴨は辺りを見渡し、もう一方の鴨は水辺の水生植物か、貝類や魚類などの小動物を捕えようと口を開けた瞬間か。台鉢状で鍔縁形になっており、品格がある。



団龍図小皿 20客 松山窯 口径12.1cm 個人蔵

20客ということはウブロで、作品が窯元から出たまでの姿をとどめたものである。ただ、世間に伝世している20客の内では、元箱に墨書で「二十人前」とは書かれても、中身に22客や23客入っているものがあり、そういうものが、本当のウブロである。2客や3客は、割れた時などのために余計に入れているもので、古式ゆかしい日本らしい仕様である。



松図小皿 15客 松山窯 口径11.5cm 個人蔵

車輪のような形をした松である。車輪松を画面にグルっと、天地関係なしで配置する。周辺は山形文でキリっと締めている。





布袋図小皿 松山窯 口径10.9cm 個人蔵

松山窯の作品で、本作のように人物が大きく主題となっているものは珍しい。布袋は9世紀の中国の実在する禪僧である。たくさんの幸せが詰まっている袋を出来る限り大きく描き、人々の運命を占う軍配とともに、福福しさにあふれた構図となっている。



山水針葉樹図小皿 11客 松山窯 口径10.9cm 個人蔵

桂林を思わせる霧の中のカルスト山脈と、堂々とした針葉樹は、中国と北欧が混ざったようなデザインである。

さろんど九谷からのお知らせ

▶ 茶房古九谷句会はじめました。

四季折々の自然を感じられる空間で、橋本薰氏（陶芸家・俳人）と一緒に句を詠んでみませんか。

句会への参加が初めての方もどうぞお気軽にご参加ください。

（英語・フランス語可）

なお、開催日についてはWEBサイトでご案内します。

さろんど九谷
イベント情報はコチラ



▶ 親子で楽しむ「季のしらべとおはなし」が開催されました。

2023年11月11日（土）14時～15時

馬頭琴奏者岩尾照尚さんによる演奏と山中おはなしの会村井加代子さんによる「スーホの白い馬」読み聞かせイベントを石川県九谷焼美術館2階ホールにて開催しました。おかげさまで大人、子どもたちを含む、総勢77名の大盛況。子どもたちが読み聞かせやモンゴルのお話にじっと聞き入っている姿がとても愛らしく、最後には質問も飛び交う楽しい会となりました。

